

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科:(地理歴史) 科目:(日本史A) 対象:(第3学年1組～3組)

科目担当者:(沢田 印)

教科・科目の 指導目標	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
----------------	--

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	《高校入試の分析結果(正答率)》 ① 地理的分野 47% ② 歴史的分野 21% ③ 公民的分野 61% ④ 全体 46% 素直な性格だが、全体的に日本史だけでなく歴史の勉強全般に対しての苦手意識を持っている生徒が多い。一方で、授業に熱心に取り組み積極的に発言する生徒も多い。基礎学力、史資料を読み取る力が低い傾向にあるので、基礎的・基本的な知識の定着や、思考力・表現力を養うことが課題である。	1. 日本史に対する興味を引き出しながら、地理や世界史、政治・経済など他教科との関連も意識させる。 2. 定期的に小テストを行い、基礎的・基本的な知識の定着を図りながら、大学入試共通テストに対応できる思考力・表現力の力も養う。 3. 資料集を活用し、史資料の読み取りを行い、そこから歴史的事象の背景を考えられる力を身につけさせる。	1. アクティブラーニング型授業展開(主体的で深い学び)で、多角的・多面的な学びの場を提供する。また、ICT機器を活用し、視覚的なアプローチを行う。 2. 小テストやノート点検を定期的に行い、基礎的・基本的な知識の定着、振り返りを行う。その際、特別な配慮が必要な生徒への個別対応を行う。 3. グラフや史料などは、個人だけでなくグループで考えることにより、思考力や表現力を高めていく。 4. 授業の最後に振り返りシートを書き、分かりづらかったところや興味を持っているところを把握し、授業改善に努める。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			